

1. 本園の教育目標 <じょうぶなからだ・やさしい心・ゆたかな感性>

・健康でたくましい心身を養い『生きる力』の基本を身に付ける

・ゆたかな感性、やさしく思いやる心情を培う『情操教育』に力を入れる

何事も意欲的に取り組み**協調性のある態度**を身に付け、併せて『成功感』や『達成感』を味わう保育  
基本的な生活習慣と善悪の判断が年齢なりに出来、また**社会性**やけじめを身に着け、『十の姿』を目指す

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標に沿った評価項目について自己点検・自己評価を実施し  
教職員が**客観的に**自らを振り返り、PDCA サイクルで**改善点**に気づき、より一層**教育の質**を高めていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達している B：一部達している C：一部改善を要する D：改善を要する

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育内容と計画 園児への接し方 環境構成	B	全員が教育方針を理解し『卒園までに育てほしい10の姿』を意識するように努め始めた。園児主体という考えで気持ちを汲み取る努力があった。だが、環境構成は、教師主体で改善が必要な場面が多かった。
2	教職員相互の連携 協力・役割分担 研修・資質の向上	A	園の方針に則り一同がワンチームで協力し各自が知識や技術の獲得の研修を重ねて、日々の保育の質の向上を目指した。例年のように引き続き <b>全国教育美術展では地区学校賞「北九州市教育委員会賞」を受賞</b> 。併せてベルボ会『銀賞』、他にも特別賞受賞多数。
3	保護者への対応 地域との関わり 預かり保育関係	B	今年度は昨年5月にやっとコロナが5類になり、様々な地域行事も少しずつ復活。だが、コロナの代わりにアデノウイルス感染症やインフルエンザなどが夏休み明けに多発。コドモンシステムを活用し写真や動画 YouTube 配信、或いは HP 上で詳細を流し、家庭との連携に役立った。預かり保育希望も増えてきたが、人員配置に苦慮した。
4	感染症対策と危機管理（特にバス送迎の安全）	A	通常の火災・地震・不審者に備える避難訓練のみならず、新型コロナウイルス感染症対策のみならず徹底して取り組み、安全第一の防御で望んだ。また、バス送迎中の事故や命に係わる事案に学び運転手や助手の研修も努力を重ねた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
B	教師は自己点検自己評価表を前回の結果と見比べてみて、自分の改善点や課題がはっきりして来た。新卒新規採用者のメンター役の3人も特に反省を重ねた。また全職員（バス運転手4人・助手4人・就労し始めたばかりの事務職の2人も含めて）、常に【人権意識】を高めて行かねばならないと痛感していた。「様々な馴れ合いを排し、丁寧に見直し、共通理解が必要」とにじいろグループの重永先生から具体的に学び、しっかり協力体制で取り組み様々な新たな課題を見出し、夏休み中の園内研修は意義深かった。今後、より質の高い幼児教育になるように謙虚に PDCA サイクルを念頭に置きながら、安定した園の経営の確立の為に一丸となって課題に取り組み、継続して実施することの重要性を共通理解している。クラスによっては担任が途中で変わり、またバス助手の病気罹患にもより、メンバー変更が頻回だったが、全員が一致協力体制でカバーし合い、無事に一年間を過ごすことができていた。学校法人の正常化がやっと完了した。理事会や評議員会のスリム化が行われて、8月16日臨時理事会で理事長が交代した。

## 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	危機管理と安全対策	危機管理マニュアルや刻々と変わるガイドラインを基に、常日頃から危機管理意識の向上に努め、園児の年齢に応じた教材を準備し指導の工夫をし、実際に繰り返し避難訓練を行う。一学期（火災）、二学期（交通安全・不審者対策）、三学期（地震・その他アレルギー等）
2	特別支援	研修に参加し多様性が認められるインクルーシブ教育の推進に取り組む。年少組のなるべく早い時期から、その子に一番適した専門家のいる連携部署と繋げるように促す。（療育センター、小児科、キラキラ通園、ひまわり学園、他民間の放課後通所施設など）
3	地域との連携や職員の働き方改革と処遇改善と資質向上	地域に愛される園を目指し、感染症対策を施しながら地域との連携に努めてきたが、これからは、土日祝の行事出勤は控えて、休憩時間を必ず全員が取れるように効率よく勤務する体制を整える。残業せず終業時刻を守るように、助け合い、遅くなる先輩を待たずに各自タイムレコーダーを打刻して直ぐに退出する。処遇改善を図るその為には、『研修』を重ねて、一種免許取得の努力が必要。

## 6. 学校関係者委員会の評価

様々な問題の一つずつ乗り越えて、子どもたちの待ったなしの成長を誠心誠意で助けている尊い心に感動を覚えます。コロナ感染症なども禍を転じて「ICT化の良いチャンス」にしてきているのも素晴らしい。

教職員の皆様はいつも熱心に指導の工夫を試み、運動会でも、こども中心で目を見張る成果が上がっていた。

例えば、他にも11月の『アートフェスタ2023』は従前の『作品展』とは全然違って、その日は作品を見て回るだけでなく、親子でアートを楽しむ日ということに様変わりし、年長組では卒園式の日に胸に飾る花形の『ロゼット』の制作を楽しみ、充実した楽しいふれあいの思い出に残る時間空間でした。

また12月の創立70周年記念音楽会も八幡東区の響ホールで開催され、朝から先ずは手作り楽器のたんぽぽとつぼみ組、年少も打楽器類で歌いました。年中・年長組は様々な楽器のアンサンブルで特に『線路はつづくよどこまでも 鉄道唱歌』は圧巻で聴きごたえがありました。汽笛は春風河馬さんの手作り竹笛がピッタリ。

午前中の最後は第二部『緑ヶ丘学園70周年創立記念式典』でした。学園創立当時の多くの恩人の方々を偲び、感謝の念を伝える真心のこもった式典で、永年勤続の表彰や感謝状の贈呈などに始まり、『記念演奏』では年長60名全員の鍵盤ハーモニカの演奏で『よろこびのうた』ベートーベン作曲交響曲第9番第4楽章より、そして弦楽四重奏で卒園生夫妻のバイオリン、ビオラ、チェロの生演奏！親しみのある曲にうっとり、最後は全員で園歌斉唱！！あたたかい感涙で、深い感動の中に浸りました。園児にはすごい集中力が育っていて、特別支援の必要な園児は全然いないのか？と思ったが、その一人ひとりの成長ぶりにも目を見張ったのでした。

日々子どもたちが楽しく安全にのびのびと表現活動にも取り組み、それぞれの個性の良いところを伸ばして生活している様子がみられ非常に好ましい。特に四季折々園庭や観察農園やたんぽぽや教室の環境を整え、炎天下にも関わらず汗だくで子どもにひまわりや稲やサツマイモ、チューリップの観察をとおして考えさせ、主体性や感性を育てる工夫をなさる様子は、さぞかしご苦労が多かったものと頭が下がりました。オオクワガタムシを育てたり、メダカのエサをやったりなど体験学習が多くて所謂アクティブラーニングが素晴らしかった。

保育の質の向上の為に、各種研修会にリモートでも参加し、もっともっと研鑽をつんで、今後益々それを保育に反映させて欲しいと願っています。

併せて、働き方改革や処遇改善は、国や県や市が、現場の幼稚園の頑張りを後押しして、大いに幼児教育の振興を強力に行って頂けるように願っています。「幼児教育を置き去りにして、保育福祉にばかり予算が厚く配分されているように感じて不公平だとも思います。

## 7. 経営上の 会計や経理面に関して

昨年4月末から会計事務所及び公認会計士が変わり、当面のところは引継ぎが完了はしておらず、この一年間の分について新たなコメントはまだ出ていませんが、コロナ禍での出産控えと少子化が主な原因で全国的に園児数が激減している現状があり収入減が著しいが、しかし『幼児教育保育の無償化』のお陰で保育料の未納者が無くなり有難いことです。

また引き続き、全職員が従前から節電・節水等経費節減に努めて、【リサイクル・リユース・リデュース】に努力している。まずは4月からは、ペーパーレス化に、より一層勉めることにしている。SDG'sの観点から身の回りを見直しして、職員だけでなく園児にも折に触れて、指導している。

「日本だけでなく世界中に困っている人がいて助けを待っているから、無駄遣いを止めて12月の歳末助け合いに協力するように！」と、年齢に応じて指導をして『地球温暖化』についても関心を持たせている。

幼い内から、絵画コンクールで日中韓の国際交流の機会を得て、視野を広げているのも素晴らしい。

将来近隣の国と平和にお付き合いし、政治経済の未来の友好親善のためにも、心の交流の源になり、人格形成にもお金では買えない大変貴重な体験で、子どもたちの未来に良い効果があると期待している。

多分この一年間も幼稚園の収支決算は、従前どおり問題なく適正に処理されていると予想されている。

令和5年度 学校関係者評価委員（ R・I ）

令和5年度 学校関係者評価委員（ Y・N ）

令和5年度 学校関係者評価委員（ M・S ）